

# Rohm Music Friends<sup>♯</sup>

ローム ミュージック フレンズ

2015.11 | No.2

—ローム ミュージック ファンデーションの音楽文化支援情報誌—



ピエール=オーギュスト・ルノワール「カテュール・マンデスの娘たち ユグット・クロディーヌ、エリオンヌ」1866年  
The Daughters of Catulle Mendes at the piano, 1866  
© Bridgeman Images / amanaimages



ローム ミュージック ファンデーションは  
音楽を通して  
豊かな文化を作ることを  
目指しています。



# *Rohm Music Friends*

No.2  
2015.11

## 目次

- p03 佐藤研一郎 音楽への思い  
佐藤研一郎 × 小澤征良
- p07 小澤征爾音楽塾 塾長 小澤征爾 インタビュー
- p11 小澤征爾音楽塾
- p13 活躍する奨学生 インタビュー
- p17 2015年度 奨学生のご紹介
- p22 奨学生からのお便り
- p23 京都・国際音楽学生フェスティバル2015
- p27 ローム ミュージック ファンデーション音楽セミナー2015
- p31 ロームシアター京都
- p33 奨学生一覧

# 佐藤研一郎 音楽への思い

No.1 ロームの音楽文化支援、財団設立と奨学援助

佐藤研一郎 対談 小澤征良  
Ken Sato Seira Ozawa

公益財団法人 ローム ミュージック ファンデーション 創立者・理事長  
ローム株式会社 名誉会長



いままで正式にどなたかにインタビューをしたことがないのでとても緊張して京都にうかがいました。でも私にとって、佐藤研一郎さんという方は(もちろん並外れた経歴の偉人というのは言うまでもないのですが)その肩書きだけでなく、15年ほど前にお会いして以来今まで、一人の人として飛び抜けてユニークで、大きな宇宙を内側に秘めている方で大尊敬しているので、インタビューという場のおかげで、いろいろお話を聞かせていただけたらと思うと、緊張すると同時に、冒険前のわくわくするような思いもありました。

(ここでは、佐藤研一郎さんのことを敬愛を込めて普段通り“研さん”と呼ばせていただけましたら幸いです。)



小澤 征良  
作家・エッセイスト

米国サンフランシスコ生まれ。上智大学比較文化学部卒業。メトロポリタン歌劇場主席演出家デイビット・ニース氏につき、オペラ演出を学ぶ。「おわらない夏」(集英社)でデビュー。著書に小説「蒼いみち」(講談社)「しずかの朝」(新潮社)、エッセイ集に「思い出のむこうへ」(筑摩書房)「そらいろいろ」(新潮社)、翻訳に「アプディーの冒険物語」(ホーム社)など。アンソロジー本に「いつも一緒に」(新潮社)「君と過ごす季節」(ポプラ社)。「いま、どこですか」(新潮社、杏共著)など。集英社「すばる」に「ひとすくいの時間」連載中。

研 研さんは、1991年に財団法人ロームミュージックファンデーションを設立されました。アメリカでは芸術や音楽を助ける財団は一般的なようですが、私の印象だと、日本ではなかなかそういうのがなかったなかで、これを実現してやってみようと思った研さんは、ほんとにパイオニアだと思って心から尊敬しています。当時どのような思いで設立されたのか、ぜひお聞かせいただきたいと思っています。ですが、実は財団設立前に研さんは、すでにロームとして音楽の書籍を発行されているんですね。

研 ただ広告出して会社の宣伝するのは嫌だし、ちょっと変わったことをやって宣伝にしようと思ったんです。1965年と70年に、音楽と楽器についての本を作って、お得意先のエンジニアの方たちに送ったんです。それぞれに実際の音を聴けるようにノシートを付けました。

研 ソノシート、ですか。それって何ですか？初めて聞きました！

研 レコード盤の普及版です。



1970年「楽器の歴史」  
全5巻ノシート付

研 なるほど、カラフルなレコードみたいですね。それを何部作られたんですか？

研 各5,000部くらいです。

研 かなりの数ですね、その音楽の本をエンジニアの方たちに送られたというのは、元々どういうお考えからだったんですか？

研 エンジニアは音楽が好きだろうと思ったんですね。それと、ロームの商品を売ろうと思って、エンジニアが横向いていたら、全然売れないわけですよ。広告出したって、そんなもん、なかなか見ていただけないし。それで、こういう本と一緒に、商品を後から送ったり。うちのセールスマンが持って行ったこともあります。1970年に作った「楽器の歴史」は、ヨーロッパで直接取材、写真収集、録音をしました。当時はまだローム設立(1958年)から10数年後で、社員も600人くらいでしたが、企業目的のなかで「品質を第一とする」と掲げているように、宣伝誌でも製品と同じく“本物”を作って、皆さんに喜んでいただきたかったんです。

1989年「ローム君の音楽会  
パッハスペシャル PLAY BACH」



研 ずいぶん、画期的ですね。そんなことを思いついて実際にされた会社、他になかったんじゃないですか？

研 ロームは昔からこういうメセナ的なことをしてきました。

研 ロームがコンサートの開催や支援を始められたのも、財団設立前の1989年ですね。

研 はい。最初は京都市交響楽団と山本直純さんのコンサートの開催で、この時に直純さんとお付き合いが始まったんです。

研 そうなんですね！直純さんは、齋藤秀雄先生のところでの父の兄弟子です。

研 そのご縁で、ロームミュージックファンデーションを作る時に、征爾さんに理事になっていただいたわけですね。

研 音楽を志す学生に奨学金を出されたきっかけは何だったのでしょうか？

研 三重県の女の子から、音楽学校へ入りたいけど、お金かかるからって手

紙が来て、いくらか聞いて、じゃあ、まあ、私のポケットマネーで、「これ使ってください」って。まだ今でも会ったことないんですけど。

**征良** 一度もお会いになったこともないんですか! 映画の中みたいですね!

**研** その方は、今ニューヨークでピアニストとして仕事しています。とても喜んでくれているみたいです。

**征良** それはそうでしょうね! だって、もしかしたら諦めなければならなかった夢が実現したんですから!

**研** 良かったなと思います。

**征良** 財団が支援されてきた奨学生の人数がすごいですよね。榎本大進さんとか、世界に羽ばたいている音楽家の数が凄く多いですね。研さんは「私のやりたかった“音楽への支援”を今は財団が仕事としてやってくれているから良かったな」みたいな、シンプルな見方なさるけど。それが、だって世界に及ぼしている影響の大きさっていうのは、本当に相当すごいこと、ですよ。

**研** こっちら無理して宣伝はしなかったんですけど。支援した方が「ああ、助かった」っていう声をね、自分で発してくださったおかげで、少しずつ、みんな知ってくれるようになったんですね。ローム

ミュージック ファンデーションっていうとやっている事業を、皆さん、ご理解いただいているみたいだし。やっぱり、20数年の蓄積があってね。支援してきた音楽家の方々がほんとに頑張っているから、そういうものが財産になっていると思うんですよ。

**征良** 音楽家を育成することによって、その人たちは音楽で世界に還元するわけで、全く本業と違うところで、その力を育てているって本当にすごいことですね。前からずっと、一つ、お聞きしたかったのですがタイムマシーンがあって、もし研さんが今、エンジニアになる前の学生さんで、こんなふうな若い音楽家たちを助けている会社(財団)の存在を知ったとしたら、どんな感想をお持ちになると思いますか。

**研** 「ああ、いいことやっているな」って。

**征良** いやあ、かっこいいです…本当に、そのシンプルな姿勢が。

**研** 何も、小言言わないわけですからね。どう使っても自由だし。それから、それによって出世しようと、やめてどっか行っちゃっても、それで追及しないんです。

**征良** でも、やっぱり、音楽を聞いたりしたときに「ロームの奨学生だったんだ」っていうことを後から知ったりすると感動されますか? もちろん、知っていて聞く場合もあると思いますが。そういうときはきっと凄く嬉しいでしょうね?

**研** 「おお、出世したなあ」って。まあ、それぐらいです。

**征良** これまでの奨学生414人のうち、29人が今年の奨学生ですけど。何か、ひと言、その方たちにメッセージをいただけますか?

**研** 会ったことないのですね。

**征良** (笑) 会ったことなくても、もしメッセージを伝えたいとしたら、どんな言葉ですか?

**研** ……「頑張って!!」。

**征良** 一言だけ頑張って。(笑) 研さんって本当にチャーミングです! じゃあ、どんな音楽家になってほしい、みたいなのあるのでしょうか。

**研** それ書かれちゃうと、みんな、「そうか、そういうこと期待されてんだ」って思ってしまうから。

**征良** (笑) ああ、みんなの、プレッシャーになっちゃうかもしれないから?

**研** だから無しにしてほしいところだけど、まあ、私が思っていることは、学校や幼稚園の先生になるのもいいと思うんですよ。オルガン弾いて。歌を教える。それもいい。その子どもたちから、ずっと、誰かが出てくるわけですよ。でもね、人間って、どこで伸びるか分からないですよ。こっちらで止まっちゃう人もいれば、こっちらまでいける人もいます。こっちらは、頑張ってみんな



にいい音楽聞かせてあげて、っていう程度で、いいんじゃないかと思うんですよ。

**征良** そのお話、うちの父もちょっと似ている気持ちかもしれないです。小学生とか中学生の子どもたちにオペラを生で見せて、その100人のうち1人でも、「わあ、おもしろい、これすごい」って思う子がいれば、その気持ちが何か、その子が音楽家になるかならないかはわからないですけど、何か大きいものにつながっていくからそこに意味があるんじゃないか、っていうのと、ちょっと、今、似ているなあ、と思いました。

**研** 音楽って、その人だけじゃなくて、ヴァイオリン作った人もいるし、ピアノ作った人もいるし、あるいは、ピアノ工場に勤めるっていう人もいるだろうし。チケット買って音楽聴きに行く人がいるから、舞台上で弾こうっていう気にもなるわけですね。音楽っていうのは、1人だけで、上手に弾けるようになるわけじゃないんですね。支援の1つの目的として未来の聴衆を育てるというのも大事なことです。

文:小澤 征良 【次回に続く】





小澤征爾音楽塾  
塾長 小澤征爾  
インタビュー

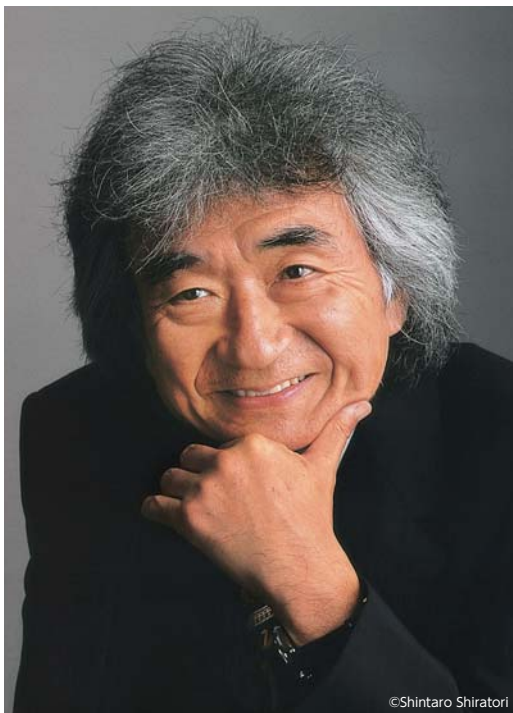
Seiji Ozawa

小澤 征爾

小澤征爾音楽塾 塾長・音楽監督



2000年に始まった小澤征爾音楽塾、2015年3月にはオペラ・プロジェクトXⅧラヴェル：歌劇「子どもと魔法」の全国4カ所公演と、新たに京都市内の小学生たち約2,000人を対象にした「子どものためのオペラ」も大盛況の内に幕を閉じました。今回は塾長の小澤征爾さんに、塾の立ち上げから、今回の公演、これからの予定について、ご家族でエッセイの小澤征良さんとお話していただきました。



©Shintaro Shiratori

Profile

1935年、中国のシャンヤン(旧奉天)生まれ。幼いころからピアノを学び、成城学園中学校を経て、桐朋学園で齋藤秀雄に指揮を学んだ。1959年、プザンソン指揮者コンクールで第1位を獲得。その後、カラヤン、バンスタインに師事、1973年にボストン交響楽団の第13代音楽監督に就任。アメリカのオーケストラ史上でも異例の29年という長期にわたって務め、アメリカ国内はもとより、オーケストラの評価を国際的にも高めた。2002年秋には、ウィーン国立歌劇場の音楽監督に就任、2010年春まで務めた。日本においては、サイトウ・キネン・オーケストラを1984年に組織し、1992年より、芸術的念願であった国際的音楽祭“サイトウ・キネン・フェスティバル松本”へと発展させ、総監督に就任(〜継続中)。フェスティバルは、2015年より、“セイジ・オザワ 松本フェスティバル”として新たなステージに踏み出す。また、1997年にサイトウ・キネンの室内楽勉強会から始まった室内楽アカデミー奥志賀を、アジア圏の優秀な学生に門戸をひるげる小澤国際室内楽アカデミー奥志賀として2011年にNPO法人化。一方で、実践を通して若い音楽家を育成するための“小澤征爾音楽塾オペラ・プロジェクト”(2000年〜)、および“小澤征爾音楽塾オーケストラ・プロジェクト”(2009年〜)を積極的に展開。2005年にはヨーロッパにおける音楽学生を対象にしたSeiji Ozawa International Academy Switzerlandをスイスに設立し、教育活動に力を注いでいる。

征良 小澤征爾音楽塾を立ち上げた経緯について、どんなふうにいるの？

征爾 僕が一番言いたいのは、佐藤研一郎さんが二十数年前にローム ミュージック ファンデーションを設立した時、佐藤さんの並々ならぬパッションを強く感じたということ。そのとき僕ができることなら、なんでもやろうと思った。

征良 小澤征爾音楽塾の目的について、あるいは小澤征爾音楽塾って父にとってはどういう存在なのだろう？なぜ音楽塾を始めたの？

征爾 佐藤さんが財団を設立してから数年後、音楽塾を立ち上げたときに、「小澤征爾音楽塾」という名前をやることを、佐藤さんから強くすすめられて、彼はそれを120%援助してくれた。こうして、ボストン時代のタンブルウッドからの僕の長年の夢が、日本で実現した。

僕が若かった頃は、本場の西洋の音楽に触れられる機会が皆無だったんだ。

日本で音楽の勉強をしている若い人たちはとても質も技術もいけど、もしかして、音楽を……(ここで父はじっくり考え込んでから、ゆっくりと丁寧に次に続く

言葉を探しました)聴く人のまえて演奏するときの、なんていうか、心構えが、よくいえば、遠慮がち、率直に言えば表現不足かもしれない。僕はそれを、海外でずっとやってきた。僕の経験や僕が連れてくる先生たちの経験で、若い人たちに助けたいと思ったんだ。

音楽塾のすごく特殊なところは、オペラの歌手群を、一流の世界の歌手たちが担うことで、学生のオケが彼らに負けないよう毎日奮闘して、練習に練習を重ねていくこと。

一流の世界の歌手たちと一緒にオペラの音楽をつくることで、若い塾生たちがオペラの素晴らしさを体験して、味わうことが出来る。

僕が若かった頃にはこんなことは夢のようなことだったし、現代でも、こんな経験を出来る場所はほかにほとんど無いと思う。



写真提供:小澤征爾音楽塾 ©大窪道治



写真提供:小澤征爾音楽塾 ©大窪道治

そうしていくなかで、たったひと月弱のリハーサル期間を経ると、学生たちは本当に目を見張るほどの成果を見せる。これには毎回本当に驚かされる。これを実現させている佐藤さんは、このことについて意見が僕と一致している、本当に素晴らしいことで世界に類がないと思う。

**征良** ひとつの会社が長い期間にわたって支援を続けてくれることは本当にすごいことだと思うのだけど、その意味と特異性をどう捉えているの？

**征爾** 若い音楽家を育てるということは、すぐに結果が出るという性質のものではなく、何年も、何年もかかる場合が多い。それを支えようとする佐藤さんのパッションは本当に特別で、素晴らしい。あまり世界でも類を見ないのではないだろうか。「子どものためのオペラ」でも、僕は聴いてくれる子どもたちのうち、百人のうちの一でも二

人でもそれを体験することで、音楽に興味をもってくれたら大成功と思っている。

佐藤さんやロームが、今年からはじめた「子どものためのオペラ」を支援してくれた意味は本当に大きいし、佐藤さんとまた一つ新しいことをさせてもらえたことがとてもうれしい。

**征良** 「小澤征爾音楽塾」の成果や今後については、どんなふうに思っているの？

**征爾** 音楽塾のレベルは昔からみてきて、毎年、どんどん良くなってきている。若い人たちにオペラの醍醐味を味わってもらうだけではなく、夏のサイトウ・キネン・フェスティバル松本ではベートーヴェンの第九の終楽章を勉強してもらって、まさしく、僕の師匠のカラヤン先生が言っていた「音楽家は、オペラとシンフォニーの両輪を自分の手に入れるべきだ」という究極の理念を、実践していることになる。こんなことをやっているのは世界でも他にないだろう。それを実現させてくれている佐藤さんは、本当のバイオニアだ。その佐藤さんと僕が話しているときに、京都のどこか野外で、僕の指揮で第九の終楽章独唱合唱つきを無料公演でやってみたいとい

うことを話した。これが今年の9月12日に京都の二条城の野外で実現したんだ。

**征良** 来年2月の小澤征爾音楽塾は『こうもり』です。2003年と2008年に続いて3回目ね。

**征爾** オペレッタの傑作で派手だし、今回はニューヨークのメトロポリタン・オペラから巨大なプロダクションを持ってきて上演するんだ。大きなコンテナ8本でセットが届くことになっている。去年の『フィガロの結婚』と今年の『子どもと魔法』でやったオペラ・ドラマティコ形式とはまた違う、グラントオペラの上演になる。

**征良** 日本人の若い指揮者と一緒にやることも決まりました。

**征爾** そう。村上寿昭君という、以前僕のアシスタントをやっていた人。この前久しぶりに彼の指揮を見て、成長ぶりに感心して決めただ。

**征良** 去年『フィガロ』でテッド・テイラーさんと一緒に指揮したみたいに、村上さんと振り分けるのね？

**征爾** テッドとやった『フィガロ』はともうまくいったと思うし、残念ながらまだ『こうもり』全部で一人で指揮できるほど体力が戻っていないからね。こういう新しいやり方をさせてもらえるのも、小澤征爾音楽塾と一緒にやってくれているロームさんのおかげです。本当に感謝しています。



写真提供:小澤征爾音楽塾 ©大窪道治



## 小澤征爾音楽塾オペラ・プロジェクトXIII

### 小澤征爾音楽塾とは?

2000年、小澤征爾さんがオペラを通じて若手音楽家を育成することを目的に開始されました。恩師であるカラヤンの言葉「交響曲とオペラは、音楽という車の両輪のようなもの」を持論とする小澤さんは、その実践の場として小澤征爾音楽塾公演を開催しています。ロームは活動が始動した2000年より、その公演活動を継続的に支援しています。

### ベートーヴェン: 交響曲第2番二長調作品36 ラヴェル:歌劇「子どもと魔法」 オペラ・ドラマティコ形式 (原語上演/字幕付き)

2015.3/15 よこすか芸術劇場、3/21 びわ湖ホール、  
3/24 東京文化会館、3/28 愛知県芸術劇場

公演前半はコントラルト歌手として世界的に活躍し、近年では指揮活動も行っているナタリー・シュトゥッツマンさん指揮でベートーヴェン 交響曲第2番を演奏、後半は小澤征爾さん指揮で歌劇「子どもと魔法」が上演されました。ファンタジーの世界で小澤征爾音楽塾オーケストラの渾身の演奏と歌手の方々の素晴らしい歌とコミカルな演技に多くのお客様から拍手が起こりました。



音楽監督・指揮(ラヴェル):小澤征爾  
指揮(ベートーヴェン):ナタリー・シュトゥッツマン  
演出:ディヴィッド・ニース  
歌手:エミリー・フォズ、エヴァン・ボイヤー、鈴木望、大賀真理子、キアラ・ダフィー、  
清水多恵子、町英和、ジャン＝ポール・フォーシェール、栗林瑛利子、盛田麻央 他  
管 弦 楽:小澤征爾音楽塾オーケストラ  
合 唱:小澤征爾音楽塾合唱団

### Voice 大時計/雄猫 町英和 [バリトン]

ローム ミュージック ファンデーション在外研究生として  
2008.10~2010.9 ミュンヘンにて研鑽

私の小澤征爾音楽塾との関わりは今回が3回目です。毎回感じることは自分がこの塾で音楽の本質に触れているということです。稽古の時から飛んでくる小澤塾長の音楽に対するもの凄いいエネルギー、これにベクトルを合わせ負けじと歌っていると練習期間は家に帰っても興奮が醒めません。世界中から集まった素晴らしいコーチの方々、歌手たちとの共演や会話を通して、表現する者の役目を再認識する日々です。オペラというある意味で厄介なものを、オーケストラの若い塾生達とじっくり丁寧に作っていきける過程は新しい発見の連続で、他では味わえない刺激的な楽しい時間です。



大時計



雄猫

### 子どものためのオペラ ラヴェル:歌劇「子どもと魔法」 (日本語上演)

2015.3/26 京都市勧業館みやこめっせ

「子どものためのオペラ」は、「本物のオペラを体験してほしい」という小澤征爾さんの思いから、今回初の試みとして、京都市内の小学生約2,000人を対象に開催されました。はじめに、小澤さんが子どもたちの間を通りながら簡単なあらすじを紹介した後、オーケストラの奏者が楽器毎に工夫を凝らした演出で入場、そして本番は本公演のカバーキャスト(控え歌手)が出演し、歌詞は小学生向けに日本語で歌われました。大きな会場を存分に使い、通路から歌手が出てきて歌ったり小道具が子どもたちの頭上を舞ったりと子どもたちもわくわく楽しみながら鑑賞していました。



音楽監督・指揮・お話し:小澤征爾  
演出:ディヴィッド・ニース  
歌手:金澤桃子、駒田敬章、小倉牧子、全詠玉、松藤夢路、  
近藤圭、高島伸吾、伊藤晴、藤井玲南 他  
管 弦 楽:小澤征爾音楽塾オーケストラ  
合 唱:小澤征爾音楽塾合唱団

### Voice 大時計/雄猫 近藤圭 [バリトン]

ローム ミュージック ファンデーション2012、2013年度奨学生  
としてハンブルク音楽院(ドイツ)にて研鑽

ラヴェルの「子どもと魔法」は、上演時間約45分と短いながらも、ストーリー、メロディー、色彩豊かなオーケストラレーションで、小さな子供から大人まで楽しめるオペラです。特に、主人公と同年齢である小学生の子供達には、ダイレクトに伝わる作品だと思います。実は、私が音楽を始めたきっかけが小澤先生なんです。小学生のとき、祖父母に連れられ、小澤先生の指揮する演奏会に行きました。そのとき、先生の情熱的な音楽に感動し、音楽の道を目指そうと決意しました。今回、小澤先生と一緒に演奏させていただき、先生の音楽に対して真摯に向き合う姿、そして子供たちに音楽の素晴らしさを伝えようとする熱意、エネルギーがまるで魔法のように会場全体を包み込み、その高い集中力の中、私もいい演奏、演技ができたのではないかと思います。この公演を通じて、私が子供のときに感じた、音楽の素晴らしさ、そしてオペラ、音楽に興味をもってくれる子供がいたら、本当にうれしいことです。



大時計



雄猫



# 活躍する 奨学生 インタビュー

VOL.2

*Tatsuya Shimono*

下野 竜也 [指揮]

1999年度奨学生  
給付時の在籍学校:ウィーン国立音楽大学



©Naoya Yamaguchi

## Profile

1969年鹿児島生まれ。2000年東京国際音楽コンクール<指揮>優勝と齋藤秀雄賞受賞、2001年プザンソン国際指揮者コンクールの優勝で一躍脚光を浴びる。国内の主要オーケストラに定期的に招かれる一方、ローマ・サンタ・チェチーリア国立管弦楽団、チェコ・フィルハーモニー管弦楽団、シュツットガルト放送交響楽団、南西ドイツ・フィルハーモニー管弦楽団、アメリカのシリコンバレー交響楽団など海外のオーケストラにも次々と客演を重ねている。2006年に読売日本交響楽団の初代正指揮者に迎えられ2013年4月からは首席客演指揮者。2014年4月には京都市交響楽団常任客演指揮者に就任。吹奏楽の演奏にも定評があり、2011年から、広島ウインドオーケストラ音楽監督。上野学園大学音楽学部教授として、後進の指導にも情熱を注いでいる。

複数の国内プロオーケストラの指揮者に就任され、国内外で活躍されている下野竜也さん。桜の季節、観光客で賑わう4月の京都、賀茂川沿いにある京都市交響楽団練習場にて、この日は下野さん指揮による京都市ジュニアオーケストラ(10~22歳の子どもたちによる編成)とのリハーサル後にお話を伺いました。

—指揮者を目指されたきっかけは？  
どのようにして指揮者になられましたか？

遅いスタートでした。ジュニアオーケストラでトランペットを吹いていて、指揮への憧れはありましたが、とてつもなく大変だろう…となれるとは思っていませんでした。大学進学のと看、音楽の先生になろうと、鹿児島大学教育学部音楽科を目指し、そこから始めたんです。

大学では、トランペットでオーケストラに所属しました。そこで指揮者への憧れがますます強くなりました。その後、桐朋学園大学の指揮教室に3年通いました。

1996年にはイタリアのキジアーナ音楽院夏期アカデミーで、チョン・ミョンフンとユーリ・テミルカーノフのマスターコースを受けました。受講生には、現在のバイエルン州立歌劇場 芸術総監督のキリル・ペトレンコなどもいて、とても刺激を受けました。その後、1997年に大阪フィルハーモニー交響楽団(以下、「大阪フィル」)

の指揮研究員を経て、1999年にウィーン国立音楽大学に留学しました。

—ウィーン留学時にローム ミュージック ファンデーション奨学生になられましたね。  
どうしてウィーンを留学先に選ばれましたか？

湯浅勇治先生やモーツァルトの権威と言われるレオポルト・ハーガー先生がウィーンで教えていらっしやっただけ、またウィーンで活躍した作曲家ハイドン、モーツァルト、ベートーヴェン…などがいた街で勉強したかったため、迷わずウィーンに決めました。

もう15,6年前になりますが、あの時間がなければ今はないと言える大切な時間でした。

—ウィーン的生活はいかがでしたか？

生活全てが音楽でした。「音楽の都」とはよく言ったもので、街に音楽が溢れていて、ここで生まれ培われた音楽にどれだけ近づけるかをテーマに、ドイツ語の壁もありましたが、大変とは思わず毎日が刺激的でした。

ほぼ毎日オペラを観に行きました。当時は立ち見なら150~200円ぐらいで見られました。

立ち見席のため、2~3時間並びながら学校の宿題をやって、開場したら走って持参のハンカチを手すりにくくりつけて場所を取り、外の屋台でケーゼクライナーという有名なチーズ入りソーセージとパンを200円ぐらいで買って、それでお腹一杯。あとは夜10時ごろまでゆっくりオペラを見るという、留学していたからこそできたことです。



左/ウィーン留学時  
指揮者仲間  
ロッセン・ゲルゴフと  
下/プザンソン国際  
指揮者コンクール  
受賞式



©佐々木卓男





インタビュー当日の京都市ジュニアオーケストラリハーサル風景

—その後、2000年に東京国際指揮者コンクール、2001年フランス・ブザンソン国際指揮者コンクールと国内外の有名コンクールで優勝されましたね。

実は東京国際は2回目、1回目はウィーン留学前に受けて2次で落ちています。2回目はウィーンで勉強したブラームスが本選の課題曲で、勉強したことを実現できて楽しかったという印象です。翌年のブザンソンは、「東京国際で優勝してチャンスが来るかもしれないのに、次ダメだとマイナスになる。受けない方がいい。」という意見もありました。それでも受けたいと言って、結果的に運良くまた優勝させてもらいました。何が上手くいったのかと今考えると、オーケストラとのコミュニケーションだと思います。威張ることではないですが、私はフランス語が喋れません。赤ちゃんみたいな英語で「当たって砕ける精神」で挑みました。大阪フィルの研究員時代に「オーケストラは人間の集合体だ」と教わった通り、音楽がうまかったとき「メルシー」と、にこっと顔を合わせるだけで言葉ではなく音楽家同士のコミュニケーションは生まれます。それが多くできたかなと。

実は、ブザンソンの本選でコンチェルトのソリストが止まってしまい、指揮者が間違えたとアピールしてきました。私がソリストを責めずに「ではもう1回やりましょう」と言うと、オーケストラが「この若いジャポネは間違っていない!」と味方になってくれ、2回目は上手くいきました。今だから余裕をもってそう言えますが、私は指揮者がソリストを責めてはいけないと思っています。

表彰式で審査員から、「あのときのプロフェッショナルな対応から演奏も上手くいったことを評価した」と言われました。もう1つ、審査員から「You were lucky, You are unlucky」と言われたことが印象的です。過去形としては優勝してラッキーだけど、これから勉強し続けたいといけないう、大変な険しい道のりが待っているという激励の言葉でした。その言葉の意味を今実感しています。

#### —指揮者という職業の魅力は?

その場の時間の流れ方や空間をつかさどることができるのが指揮者の醍醐味だと思います。作曲家と対話したことを自分なりに身体に入れて、それをオーケストラに示して、実現していけるという過程がすごく楽しいです。

指揮者とオーケストラの関係を生と生徒みたいに思われる方も多いかと思いますが、オケ、ソリスト、歌手が投げってくるボールもあるわけで、音楽上のキャッチボールが必要です。

#### —印象に残っている本番は?

初めてオペラを指揮した2005年の「魔笛」は大失敗でしたね。リハーサルでは「モーツァルトはこう書いているから、こうしよう!」と上手くやっているつもりでしたが、いざ舞台に行くと、簡単なものではなかった。歌手には呼吸があって空間を意識して演じていて、その中で皆を守って1つの流れを作ることができなかった苦しい思い出です。また、巨匠と言われるソリストたちと共演する中で、巨匠といえども本番で緊張するというのも知って、それ以降、おこがましいですが、何かトラブルが起きたら大変なプレッシャーの中舞台で戦っているソリストや歌手を指揮者の私が守ろうと考えるようになり、そう思うようになってから、案外上手くいっています。大阪フィルの研究員として最初のコンサートや読売日本交響楽団正指揮者として最後のコンサートも、自分

の指揮が良かったというより、オーケストラの皆さんの「どうにかこいつを男にしてやろう!」という温かい愛情を感じました。このような過去の失敗や多くのソリストとの共演、またオーケストラとの温かい空間は忘れないし、感謝しています。自分の成長で恩を返せたらと思っています。

—教育面にも力を入れていて、ジュニアオーケストラの指導や上野学園大学で教授も務められていますね。

人を教えるには早いとも思いますが、若い学生にとって一番身近なモデルケースは私たちだとも思います。私自身28歳のときに大阪フィルの88歳の朝比奈先生のリハーサルをずっと見ていましたが、28歳の未経験の若者が、先生が何十年もかけて培われた経験の元に出てくる言葉や動作をただ真似しても滑稽なだけです。その点10歳程年の離れた先輩を見ると、すべきこと、すべきでないことを分析するいい材料になる。こちらは試行錯誤してかっこ悪いところも見せることになりませんが、生徒たちがそれを見て次のステップに進めることもあります。教育は、そのリレーだと思います。それに教育に関わると、自分を客観的に見ることができ、こちらも有難いです。

#### —若い方に何かアドバイスをいただけますか。

私が学生のとき、先生から「将来お前がある程度の立場に就いてそこで失敗したら困る人が出る。でも今失敗したって未だ誰も困らないよ!だから今どどん失敗すれば?」と凄く素敵なエールをいただきました。私も若い方にはどどんやりたいことに突き進んで欲しいです。ローミュージックファンデーションの現在の奨学生の方は、勿論奨学生に選ばれたのはご自分の頑張りからでしょうけれど、支援してもらっているということは守られているということで、その守られた環境の中で、失敗を恐れず挑戦して欲しいで

す。あと海外に出る場合、私自身が困ったことは、日本のことをあまり紹介できなかったことです。海外の人は、自分の国の歴史や民族のことを非常に大切にしています。自分の国のことを知っていれば、他国の人との会話にも繋がり相手を知ることできます。

—ロームの地元である京都でも京都市交響楽団の常任客演指揮者にご就任されています。今年からは定期演奏会も隔月2日間開催に拡大され、京都により音楽文化が広がることを嬉しく思います。

そうですね。2016年1月にはロームシアター京都もオープンし、私はオープン後すぐの京都市交響楽団のオペラ「フィデリオ」も指揮させていただきました。京都は日本文化の中心ですし、新しい発信地で、良いバランスで和も洋も世界中の方々から愛される劇場になるといいですね。

私も数多く出演させていただくであろう1人として、良いものを発信していきたいと思っています。

#### —今後の活動で目標などがあれば教えてください。

尿酸値を下げる! …嘘です! 今45歳で、指揮者としてはまだまだ若いですが、人生としては折り返しです。今はできることになんでも挑戦し、後10年くらいで、その後できることを見定めていきたいと思っています。海外の人から「日本で演奏されるクラシック音楽も聴いてみよう!」ともっと思ってもらえるようにしたい。日本って「文化の輸入大国」ですよ、[輸出]もできるようにないかなと思います。方法はこれから探さないといいのですが、大まかにいうと日本人作曲家の作品をもっと日本人がやるべきで、皆でそういう雰囲気が出てくればと思います。あと私個人の目標は、今までのレパートリーをもっと練って熟成させていきたいと思っています。大学やジュニアオケなどの教育の場でも、私ができる役割の中で頑張りたいと思っています。



©佐々木卓男

# 2015年度 奨学生の ご紹介

2015年度の  
奨学生29名を紹介します。

氏名[専攻]  
給付時の在籍学校  
奨学生年度  
今後の抱負

えざわ しげとし  
**江澤 茂敏** [ピアノ]  
桐朋学園大学  
チャイコフスキー記念国立  
モスクワ音楽院(入学予定)  
2014、2015年度奨学生

今後は、国際コンクールや  
リサイタルなど、幅広い視野  
を持って活動していきたい  
です。



おかもと せいじ  
**岡本 誠司** [ヴァイオリン]  
東京藝術大学  
2015年度奨学生

コンサートや国際コンクー  
ル、さまざまな芸術や人間  
との出会いを通して沢山の  
刺激を受け、それらを柔軟に  
吸収し、自分の可能性に大  
きく挑戦していきたいです。



さきや あきひろ  
**崎谷 明弘** [ピアノ]  
東京藝術大学大学院  
2014、2015年度奨学生

演奏のレベルアップや挑戦  
に加え、博士課程ではコン  
クールがピアノ演奏と指導法  
に与えてきた影響を調査し、  
今後の世代への糧になる  
研究を完成させたいです。



いさか みき  
**井坂 実樹** [フルート/ピッコロ]  
パリ地方音楽院大学院  
2014、2015年度奨学生

ピッコロの専門科が唯一ある  
パリにて、フルートと異なる独  
自の技術を学び、自分の夢を  
現実に出来るよう努力してい  
きます。



おおえ かおる  
**大江 馨** [ヴァイオリン]  
クロンベルクアカデミー  
2014、2015年度奨学生

積極的に海外の講習会や  
コンクールに参加し視野を  
広げ、音楽的な表現の幅を  
広げていきたいです。



かみむら あやの  
**上村 文乃** [チェロ]  
パーゼル音楽院大学院  
2015年度奨学生

ヨーロッパの地で、西洋人の  
気質やものの考え方を肌で  
感じながら、この場でしかで  
きない経験をして、更に音楽  
を充実させていきたいです。



すぎた えり  
**杉田 恵理** [ヴァイオリン]  
ハノーファー音楽大学  
2015年度奨学生

クアルテットでのヨーロッパと日  
本の活動に力をそそいでいき  
たいです。ヨーロッパでは各地の音  
楽祭出演やコンサートも決まっ  
ており、日本では六花亭ふきのと  
うホールでのレジデンスクアルテ  
ットとしての活動が始まるので、ま  
ずまずレパートリーを広げて勉  
強していきたいと思っています。



うえの みちあき  
**上野 通明** [チェロ]  
桐朋学園大学  
2014、2015年度奨学生

クラシック音楽の本場である  
ヨーロッパに留学し、作曲家の  
意図を肌で感じて学び取り、  
世界に目を向けてどんどん  
進化していきたいです。



おおの わかな  
**大野 若菜** [ヴァイオリン]  
ベルリンハンスアイスラー音楽大学、  
ベルリンハンスアイスラー音楽大学  
大学院(入学予定)  
2015年度奨学生

ベルリンフィルという世界  
最高のオーケストラの中で  
研鑽を積むと同時に、現代  
音楽に積極的に取り組んで  
いきたいです。



こばやし かいと  
**小林 海都** [ピアノ]  
エリザベート王妃音楽学校  
2014、2015年度奨学生

より深いアプローチで音楽  
と向き合いつつ、ベルギー  
国内外での演奏活動も積  
極的に行っていきたくと思  
います。



すずき まい  
**鈴木 舞** [ヴァイオリン]  
ザルトツブルク  
モーツァルテウム音楽大学  
2015年度奨学生

クラシック音楽の本場ヨーロッ  
パの土地に根ざした芸術の流儀を、  
インスピレーションあふれる一流  
の演奏やアーティストから吸収す  
ることで自分の感性を磨き、独自  
の表現を体得したい。特にコンチェ  
ルトというジャンルの魅力を多くの  
人に伝えていける個性豊かなメッ  
センジャーを目指したいです。



すほう りょうすけ  
周防 亮介 [ヴァイオリン]  
東京音楽大学  
2014、2015年度奨学生

今年度は国際コンクールの挑戦と留学先についての準備を具体的に進めていきたいと思えます。



たはら あやこ  
田原 綾子 [ヴィオラ]  
桐朋学園大学  
2015年度奨学生

さまざまな音楽表現に必要な教養と技術を幅広く吸収し、常に高い向上心を持って、国際コンクールへの挑戦や演奏活動に積極的に取り組み、音楽家として深く成長していきたいです。



なかぎりのぞみ  
中桐 望 [ピアノ]  
ビドゴシチ音楽大学大学院  
2014、2015年度奨学生

ポーランド生活2年目となる今年度は、より一層ポーランドの文化や人々に対する理解を深めると共に、現地でしか吸収できない音楽解釈をしっかりと身に付け、10月に開催されるショパンコンクールで留学の成果が十分に発揮できるよう、引き続き努力に励んで参ります。



はたの さゆり  
畑野 小百合 [音楽学]  
ベルリン芸術大学大学院  
2014、2015年度奨学生

19世紀末から20世紀初頭にかけてベルリンの楽壇で大きな影響力をもったヘルマン・ヴォルフ音楽事務所の研究をしています。「音楽について知ること」の面白さを広くお伝えできる研究を発信していきたいです。



そりた きょうへい  
反田 恭平 [ピアノ]  
チャイコフスキー記念国立モスクワ音楽院  
2014、2015年度奨学生

ロシアだけではなく、色々な国の講習会に参加し、ありとあらゆる知識を身に付け、勉強に勤しみたいです。



つじ あやな  
辻 彩奈 [ヴァイオリン]  
東京音楽大学付属高等学校、  
ニューイングランド音楽院(入学予定)  
2015年度奨学生

精進を重ね、10代で国際コンクールに多数挑戦し、20歳でインディアナポリス国際コンクール、21歳でチャイコフスキー国際コンクールのタイトルを目指したいです。



なかじまりょう  
中島 諒 [サクソフォン]  
東京藝術大学大学院  
2015年度奨学生

国際コンクールや、世界で開催される音楽の祭典などに参加し、国際交流を深めると同時に技術向上に努めていきたいです。



はら まりあ  
原 麻里亜 [ヴァイオリン]  
パリ国立高等音楽院大学院  
2014、2015年度奨学生

ブカレストのエネスク国立博物館へ何度か足を運び、エネスクのあまり知られていない作品の楽譜を入手する。そしてコンサートで頻繁に取り上げ、レパートリーを増やす。



たくみ けい  
内匠 慧 [ピアノ]  
英国王立音楽院大学院  
2015年度奨学生

クラシック音楽から現代音楽にいたるまでのトップクラスの演奏を身につけたい。2015年から2年間の大学院でプロの演奏家として時代の先端を引っ張るための力を獲得したい。国内外でのコンサート機会を継続して獲得し、音楽文化の発展に貢献したいです。



つばい なつみ  
坪井 夏美 [ヴァイオリン]  
東京藝術大学  
2015年度奨学生

個性あふれる音楽家を目指して、今年も積極的に海外コンクールや講習会に参加して研鑽を積んでいきたいと思えます。



にへい まゆ  
二瓶 真悠 [ヴァイオリン]  
ベルリン芸術大学(入学予定)  
2015年度奨学生

ヨーロッパの文化を体感し自分の音楽観を広げるとともに、国際コンクールやオーディションなどにも積極的に挑戦していく。



ふくだ れんのすけ  
福田 廉之介 [ヴァイオリン]  
ヴァレー州シオン音楽院  
2015年度奨学生

スイスに留学してバイオリンの腕を磨くのはもちろん、自分の夢である世界で活躍できるバイオリニストになるためにヨーロッパの文化なども学び、人として成長していきたいです。



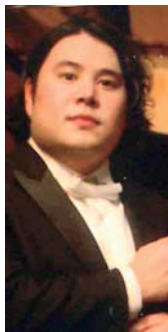
ふくもと まり  
福本 茉莉 [オルガン]  
ハンブルク音楽演劇大学  
2014、2015年度奨学生

日々感謝を忘れず、喜びをもって更なる挑戦を続けていきたいです。オルガンを、オルガン音楽をメジャーに!!



みやさと なおき  
宮里 直樹 [テノール]  
ウィーン国立音楽大学  
2015年度奨学生

常に高みを目指し、現状に満足することなく貪欲に全てのことを吸収していきたいと思います。



まるやま ようこ  
丸山 瑤子 [音楽学]  
ウィーン大学大学院  
2014、2015年度奨学生

大作曲家にとどまらず彼らの同時代音楽も考察することで、19世紀初頭ウィーンの音楽の実情を追いたいと思います。



むかわ けいご  
務川 慧悟 [ピアノ]  
パリ国立高等音楽院  
2015年度奨学生

パリの素晴らしい文化・環境を十分に享受しながら、音楽の本質を求めて日々貪欲に勉強・活動を続けていきます



みつい しずか  
三井 静 [チェロ]  
ザルツブルク  
モーツァルテウム音楽大学  
2015年度奨学生

音色の研究や楽譜の勉強を通じて、より充実した音楽を届けられるよう努め、演奏家としてのステップアップを目指します。



よしだ みなみ  
吉田 南 [ヴァイオリン]  
桐朋女子高等学校音楽科  
2014、2015年度奨学生

音楽ができることに感謝して一所懸命勉強し、演奏会や講習会に参加したり、国際コンクールへの挑戦もしたいと思います。



奨学生からの

# お便り

*The letter from scholarship students*

これまでの奨学生から届いた  
ご活躍の様子を一部ご紹介します。(順不同)

氏名【専攻】 奨学生年度  
給付時の在籍学校



Music Beyond, Inc.

藤井 香織 [フルート] 2003年度奨学生  
シュトゥットガルト国立音楽大学

発展途上国に存在する、恵まれないながらも情熱を持って音楽と接している音楽家に、自信を持って音楽の先生になってもらえるよう、教師育成プログラムを提供するNPO、Music Beyond, Inc.を立ち上げました。現在コンゴ民主共和国で、200名以上の独学の音楽家で構成されているキンバンギスト交響楽団のメンバーに教えています。



左/レッスンの様子  
右/キンバンギスト交響楽団のメンバーたち、彼らが既に教えている生徒たちと

縁が繋ぐコンサート

増本 竜士 [ピアノ] 2005~2008年度奨学生  
パリ市立音楽院、ストラスブル音楽院

2015年6月、モーツァルトの至福の名曲「フルートとハーブのための協奏曲」でコンサート出演依頼をいただきました。共演のハーピスト福井麻衣さんとは、お互いにパリで学んでいましたが初顔合わせで、同時期にロームの奨学生だった事が判明し「縁ですね」と意気投合し楽しく終演を迎えました。同じ風土感や言語から影響を受けた音楽性と室内楽音楽に相乗効果を狙いながら、演奏を重ねていく充実感と高揚感を共有でき、貴重な経験となりました。



コンサートにて



ザルツブルクでの生活

藤村 踊子 [ファゴット] 2010、2011年度奨学生  
モーツァルテウム大学

モーツァルテウム大学 マルコ・ポスティンゲル氏のクラス(Konzertfach)を学内試験、論文、リサイタルのそれぞれ全てを最優秀の成績で2014年に卒業することができました。現在はザルツブルクでフリーランスとして本格的に活動を開始し、充実した日々を過ごしています。学内コンサートにて



高い目標を掲げて

毛利 文香 [ヴァイオリン] 2011、2014年度奨学生  
洗足学園音楽大学

2015年3月、パガニーニ国際ヴァイオリンコンクールにて第2位、5月にエリザベト王妃国際音楽コンクールにて第6位に入賞しました。この2つのコンクールへの挑戦は、準備期間や入賞後のガラコンサートなども含め、私にとって何事にも代えがたい本当に貴重な経験となりました。常に感謝の気持ちを忘れず、さらに高い目標に向かってこれからも精進し続けたいと思います。



©Giusi Lorelli

パガニーニ国際コンクールのファイナルにて



挑戦を続けています…

河村 尚子 [ピアノ] 2007、2008年度奨学生  
ハノーファー音楽演劇大学

ピアノは独奏の楽器ですが、協奏曲、他の楽器との室内楽、ピアノ・デュオでも大活躍できます。尊敬する気の合った音楽仲間と音楽を紡ぐことは幸せそのもの。彼らから学べる事が山のようにあります。指導する事も自分自身が音楽を作る際に何を大切にしているのか、他人の演奏を聴いて自分自身が感じる事をどのように説明するか、を考える大切な時間だと思っています。



©Gris Hirschhäuser

ラフマニノフのCDライブ録音の演奏会にてクレメンス・ハーゲン氏と



# 京都・国際音楽学生フェスティバル2015

## 世界の選ばれし若き音楽学生が京都に集い共演する夢の音楽祭! 京都・国際音楽学生フェスティバル2015

1993年より毎年、京都の春を彩る音楽イベント「京都・国際音楽学生フェスティバル」。このフェスティバルは「音楽」を通じた国際交流と音楽家の育成を目的に、世界の代表的な音楽学校より選ばれた学生たちを京都に招き開催するフェスティバルです。フィナーレは《音楽で巡る世界の国々》と題して参加各国の作曲家の作品で構成し、5日間通して世界の若き音楽家たちの新しい音楽観とすばらしい感性に満ちた演奏を多くのお客様にお楽しみいただきました。

### 2015.5/23~5/27 京都府立府民ホール アルティ

出演	
海外(9校 21人)	国内(13校 85人)
・アメリカ(ジュリアード音楽院)	・愛知県立芸術大学
・イタリア(ミラノ・ヴェルディ音楽院)	・大阪音楽大学
・オーストリア(ウィーン国立音楽大学)	・大阪芸術大学
・チェコ(プラハ国立芸術アカデミー)	・京都市立芸術大学
・ドイツ(ベルリン芸術大学)	・くらしき作陽大学
・フィンランド(シベリウス音楽院)	・国立音楽大学
・フランス(パリ国立高等音楽院)	・洗足学園音楽大学
・ポーランド(シヨパン音楽大学)	・相愛大学
・ロシア(チャイコフスキー国立モスクワ音楽院)	・同志社女子大学
	・東京音楽大学
	・東京藝術大学
	・桐朋学園大学
	・武蔵野音楽大学

(合計 22校 106人)



### 参加学生のウェルカム・レセプション 2015.5/19

初めのオーケストラの練習の後に参加学生たちに交流を深めてもらうためにウェルカム・レセプションを開催しました。

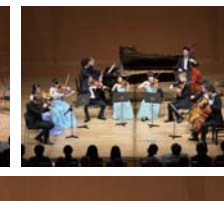
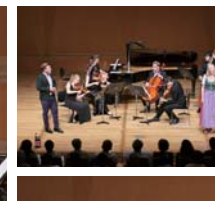
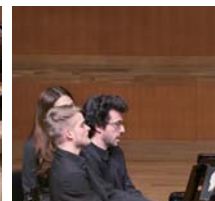


金管セクションと指揮者によるオープニングファンファーレ



## コンサート

コンサートは、各国単独のステージ、そして参加各国の学生による混成アンサンブルで構成されています。このコンサートの特徴は学生だけで音楽を作り上げることにより、学生たちは言葉の壁を感じながらも「音楽」で対話し、素晴らしい音楽を作り上げます。演奏される曲目は、弦楽器、管楽器、ピアノ、歌等様々なジャンルで著名な作品からあまり知られていない作品に至るまで、クラシック音楽の醍醐味を味わえるものとなっています。最終日のフィナーレでは参加学生によるオーケストラ、合唱、そして指揮者も学生で参加各国の作品を演奏しました。総勢100名以上の大迫力の演奏に多くのお客様が感動に包まれました。





## 京都・国際音楽学生フェスティバル2015

Voice

### 参加学生の声

- [海外]**
- ・このフェスティバルは私にとって素晴らしい経験になりました。フェスティバルに参加出来たことを誇りに思っています。
  - ・フェスティバルで多くの衝撃を受け、この期間を通じて成長することができました。
  - ・このフェスティバルで各国の才能ある音楽学生たちと出会うことができました。
- [国内]**
- ・海外の方との文化の違いや言葉の壁、音楽性の違いなど、苦労した部分もありましたが、最後はみんなで同じ気持ち、一つになれた気がします。
  - ・海外学生と共演したことは無く、今回彼らの個性的な音楽性、音楽観に生で触れることが出来て、非常に刺激を受けました。
  - ・このフェスティバルは私たち学生の大きな成長の場となるだけでなく聴衆にとっても気軽にクラシックを楽しめる素晴らしい機会だと思います。
  - ・一生の宝物になる良い経験が出来て幸せな気持ちでいっぱいです。



フェスティバル終了後のフェアウェルパーティーの様子



### 中桐 望 [ピアノ]

京都・国際音楽学生  
フェスティバル2010 出演者  
2014、2015年度奨学生

©Shingo Azumaya

私は2010年に東京藝術大学の学生代表として出演しました。東京藝術大学の内田佳宏さん(チェロ)と邦人クラシック作品を演奏したり、アメリカ、イタリア、ロシアの海外学生ピアニストと2台4手・8手の演奏をする機会に恵まれました。当時、まだ海外留学経験も無く、特に2台8手ピアノはそれぞれ違う国・環境で学び、個性もバラバラの初対面4人で演奏を創り上げていくことがとても大変で、英語で自分の意見をうまく伝えられない悔しさに悩むこともありましたが、でも全てが視野を広げる大きな刺激となり、良い演奏にしたいという想いが徐々に団結力を生み、コンサートは大成功!あの時の達成感や感動は忘れられません。期間中、毎日開催される各国の個性豊かな同年代の演奏に純粋に感動し刺激を受け、その気持ちをお互いに伝え合いました。最後のフェアウェルパーティーでは全体がひとつにまとまり感動的な雰囲気になりました。音楽を通じて世界の学生と繋がることができた喜びは今でも私の宝物です。この経験が、今の留学生活に活かしていることは言うまでもありません!



上/東京藝術大学チェロ奏者との演奏  
中/2台8手による演奏  
下/終演後に出演者と



### 大江 馨 [ヴァイオリン]

京都・国際音楽学生  
フェスティバル2013 出演者  
2014、2015年度奨学生

©Shigeto Imura

私は2013年に、桐朋学園大学の学生として参加させて頂きました。世界各国の音大生と共に一つの音楽を作り上げるという大変貴重な経験でした。初日のウェルカムパーティでは言葉の問題もあり、お互いごちんさなこともありましたが、いざオーケストラの練習が始まると音楽という言葉を通して皆の距離が一気に縮まりました。また練習の中で奏法について意見を交わしたり、他人のアンサンブルの練習を見学することで新たな発見や学べる機会が多くなりました。そして迎えたオーケストラの本番。緊張と、終わって欲しくないという想いで一音一音共に演奏する楽しさを噛み締めながら弾いていたのを覚えています。あのような機会を提供して下さい、また現在も奨学生としてお世話になっているロームミュージックファンデーションに大変感謝しております。



上/リハーサルの様子  
中/桐朋学園大学弦楽カルテットの演奏  
下/終演後に出演者と

Voice

### お客様の声

- ・次代を担う若い音楽家が世界から京都に集い、共に技術を高め交流するきっかけとなるこの事業は素晴らしい。
- ・ステージのそばで聴いていると彼らの気持ちが伝わってきてゾーンとしてしまいました。
- ・クラシック音楽のコンサートには毎月何度も足を運びますが、毎年このコンサートが一番幸せな気持ちになれます。

## ローム ミュージック ファンデーション音楽セミナー2015(管楽器クラス)

この音楽セミナーは、世界的に活躍している音楽家を講師に迎え、プロの音楽家の育成を目的に1992年より開催しています。これまでに、「弦楽器クラス」「管楽器クラス」「指揮者クラス」を実施し、今年は新たに「管楽器クラス」を実施しました。受講生たちは、5日間の集中したソロと室内楽のレッスンをし、朝から晩まで切磋琢磨して音楽を学びました。また、最終日にはコンサートを行い、若い音楽家たちのみずみずしい演奏を多くのお客様にお楽しみいただきました。



2015.7/21~7/26

セミナー :7/21~7/25 メルパルク京都

コンサート:7/26 京都府立府民ホール アルティ

## 音楽セミナー開催のあゆみ

開催回数	開催期間	受講生	開催クラス
第1回~第8回	1992~1996	154名	弦楽器(ヴァイオリン、ヴィオラ、チェロ)
第9回~第13回	1998~2002	149名	管楽器(フルート、オーボエ、クラリネット、ホルン、ファゴット)
第14回~第23回	2003~2005、2007~2013	97名	指揮者
第24回	2015	25名	管楽器(フルート、オーボエ、クラリネット、ホルン、ファゴット)
	計	425名	

## 開講式 2015.7/21

初顔合わせとなるこの日は、講師の方々からの挨拶や各受講生の自己紹介などを行いました。



## セミナー 2015.7/21~7/25

初日から早速セミナーが始まりました。受講生はソロのレッスンを4回、室内楽のレッスンを3回受け、レッスン以外の時間は練習や他受講生のレッスン聴講など、非常に充実した時間を過ごしました。また、セミナーは一般にも公開され、レッスンを熱心に聴講し、メモを取る姿なども見られました。

[ソロレッスンの様子]



1 指導講師(フルート):工藤重典先生 2 指導講師(オーボエ):古部賢一先生 3 指導講師(クラリネット):山本正治先生  
4 指導講師(ホルン):瀧井正幸先生 5 指導講師(ファゴット):吉田将先生

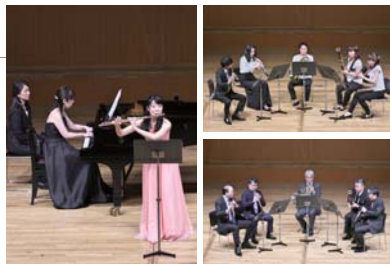
[室内楽レッスンの様子]



## ローム ミュージック ファンデーション音楽セミナー2015(管楽器クラス)

### コンサート 2015.7/26

最終日は会場を京都府立府民ホール アルティに移してコンサートを行い、多くのお客様にセミナーの成果を聞いていただきました。前日にオーディションにて選ばれたソリスト5名と、受講生全員からなる室内楽5組、そして最後には講師5名による模範演奏もあり、聴きごたえのある充実したコンサートとなりました。



### 閉講式・懇親会 2015.7/26

コンサート終了後、ホテルへ移動して閉講式・懇親会を行い、修了証の授与や講師の方からの貴重なアドバイスがありました。音楽セミナー2000~2002の受講生 小谷口直子さん(京都市交響楽団首席クラリネット奏者)も参加され、講師や受講生との出会いについてご自身の経験談や、受講生への激励の言葉をいただきました。



### 指導講師からのアドバイス

- ・工藤先生… 作曲家が書いた楽譜に遺されたメッセージを汲み取り、どうやって音楽を処理したらいいのかを常に考えてください。
- ・古部先生… 私たちは数年かけて習得することがいっぱいありますが、この一週間で方向だけでも見つけてくれたらと思います。
- ・山本先生… 木管五重奏がセミナーでできるのは非常に大事なことです。先生方が言ったちょっとしたアドバイスを増幅させるのは受講生自身です。
- ・猶井先生… 曲を速い・遅いなどのデジタルで捉えるのではなく、キャラクターで解釈すると良いでしょう。
- ・吉田先生… 口うるさいレッスンでしたが、これから勉強を続ける中で、今回のことを思い出して演奏活動に役立てていただけたら幸いです。



©佐々木卓男

## セミナー受講生(指揮者クラス)の活躍

### 齋藤 友香理 [指揮]

音楽セミナー(指揮者クラス) 2009~2013 受講生



左上/音楽セミナー2012のレッスンにて  
左中、左下/ブザンソン国際指揮者コンクールにて

2015年9月、第54回ブザンソン国際指揮者コンクールにて聴衆賞とオーケストラ賞をいただくことができました。私はローム ミュージック ファンデーション音楽セミナー(指揮者クラス)を5年受講し、その間多くのことを勉強することができ、海外で勉強しようと思うきっかけになりました。コンクール中も、セミナーで小澤征爾先生がおっしゃっていた言葉をいくつか思い出していました。指揮をする上でオーケストラをつかむことができるのは、最初の5分。それには指揮も大事ではあるが、目と耳で指揮をすることも大事であること。当初はその本当の意味を理解できなかったように思います。しかし、このような場で、先生のお言葉を思い出し、その結果2つの賞をいただけたことは、私にとってとても嬉しいことです。これからも一流の音楽家になるよう精進していきたいと思っています。

### 富田 実里 [指揮]

音楽セミナー(指揮者クラス) 2007~2012 受講生

2015年、イギリスのイングリッシュ・ナショナル・バレエにて客演指揮者として出演することになりました。10月、11月の「ロメオとジュリエット」12月の「胡桃割り人形」の公演を指揮させていただきます。私は2013年から新国立劇場バレエ団の副指揮者を務めていたところ、2014年秋に客演指揮者として来日したギャブリン・サザーランドさん(イングリッシュ・ナショナル・バレエの音楽監督)の推薦を受け、今回の出演が決まりました。今は、国・文化・人種それぞれ異なるダンサーや音楽家が集まっているこのバレエ団で、たくさんの刺激を受け、指揮者としてよりよい公演を生み出せるよう模索しながら日々を過ごしています。ローム ミュージック ファンデーション音楽セミナー(指揮者クラス)で私が学んだことは、音楽をつくること、指揮をすることの根本の部分であり、それは私の一生の礎、財産です。これからもそれを忘れずに更に自身を磨いていきたいと思っています。



左上/音楽セミナー2012のレッスンにて  
左中/新国立劇場にて「眠りの森の美女」舞台稽古  
左下/プリストル・ヒッドローム劇場にてイングリッシュ・ナショナル・バレエ「ロメオとジュリエット」を初めて指揮したときのカーテンコール



2016.1.10 OPEN  
**ロームシアター京都**  
 ROHM Theatre Kyoto

ロームは長年にわたり音楽芸術を支援してまいりました。50年間京都市民の皆様にご愛されてきた「京都公会館」が再整備されるにあたり、京都市に本社を置くロームは、その新しいコンセプトに共感し、今後50年間のネーミングライツの形でお手伝いさせていただくことになりました。「ロームシアター京都」が日本を代表する文化の殿堂として広く愛されることを願っています。



©小川重雄

**ローム、ローム ミュージック ファンデーションが開催、支援する  
 ロームシアター京都 オープニングラインアップ**

**オープニング・プレ事業**

ローム株式会社 [ローム]  
 公益財団法人 ロームミュージックファンデーション [RMF]

日程	催物名	会場
2015.3/26(木)	ローム共催・RMF 助成 小澤征爾音楽塾オペラ・プロジェクトXIII 子どものためのオペラ	京都市勤業館みやこめっせ
2015.9/12(土)	ローム共催・RMF 助成 小澤征爾音楽塾京都・二条城 特別演奏会	元離宮二条城 二の丸御殿前
2015.10/22(木)	ローム協賛・RMF 助成 高校生のためのオペラ音楽セレクション	京都コンサートホール

**オープニング事業**

日程	催物名	会場
2016.1/11(月・祝)	京都市交響楽団オリジナル・オペラ「フィデリオ」(セミステージ形式) ベートーヴェンのオペラ「フィデリオ」を、下野電也さん指揮、三浦基さん演出によるオリジナルバージョンで上演。 ローム協賛	メインホール
本公演 2016.2/18(木) 2/20(土) 子どものためのオペラ 2016.2/15(月)	小澤征爾音楽塾オペラ・プロジェクトXIV 京都公演 世界的な指揮者小澤征爾さんによるオペラを通じた若手音楽家の育成を目指し始めたプロジェクト。J.シュトラウス二世の喜歌劇「こもり」を上演。 本公演に加え、小学生対象の「子どものためのオペラ」も開催。 ローム共催・RMF 助成	メインホール
2016.4/29(金・祝)	京響クロスオーバー 創立60周年を迎える京都市交響楽団の音楽ジャンルを超えたコラボレーション企画。 ローム協賛	メインホール
2016.10/26(水) 10/28(金)	新国立劇場 高校生のためのオペラ鑑賞教室 関西公演 モーツァルトのオペラ「フィガロの結婚」を、広上淳一さん指揮、京都市交響楽団演奏により、高校生に一般のオペラ公演と同じスタイルで提供し、オペラの素晴らしさと楽しみ方を知ってもらう新しい教育プログラム。 ローム協賛・RMF助成	メインホール
2016.4/23(土) 4/24(日)	ローム ミュージック フェスティバル2016 国内外で活躍するローム ミュージック ファンデーションが支援した音楽家の豪華な共演が実現する音楽祭。 ローム協賛・RMF主催	メインホール サウスホール ロームスクエア
2016.7/24(日)	ローム ミュージック ファンデーション 音楽セミナー2016(管楽器クラス) 音楽セミナー受講生と講師によるコンサート セミナー期間中のレッスンの成果を披露するコンサートを開催。 ローム協賛・RMF主催	サウスホール

**小澤征爾音楽塾 京都・二条城特別演奏会**  
 ROHM CLASSIC SPECIAL

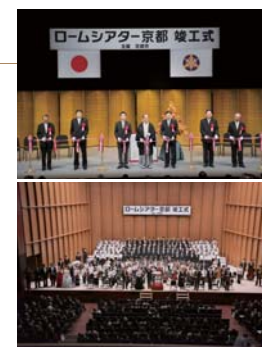
2015年9月12日、京都市にある国宝・元離宮二条城の二の丸御殿前にて小澤征爾音楽塾の演奏会が行われました。これは2016年2月にロームシアター京都で小澤征爾音楽塾オペラ公演が予定されていることから、ロームシアター京都オープニング・プレ事業として開催されたコンサートです。夕暮れ時の二条城・二の丸御殿をバックに、幻想的な雰囲気の中、ベートーヴェン作曲の交響曲第9番第4楽章(「歓喜の歌」)などが演奏されました。



©佐々木卓男

**いよいよ竣工! ロームシアター京都竣工式**

2015年9月13日にロームシアター京都の竣工式が行われました。京都府知事や京都市長と共に澤村論ローム株式会社代表取締役社長(公益財団法人ロームミュージックファンデーション理事)も出席して祝辞を述べ、多くの方々から新しい劇場の完成を祝いました。式典後にはロームシアター京都オープニング事業検討委員会委員長を務めた小澤征爾さんの指揮、小澤征爾音楽塾の演奏でベートーヴェン作曲の交響曲第9番の第4楽章が披露され、華を添えました。あとは2016年1月10日のオープンを待つばかりです。



写真提供:ロームシアター京都

**[ メインホール ]**

バレエ、オペラ、ミュージカルなどの総合舞台芸術公演を可能とする2005席の大規模多目的ホール



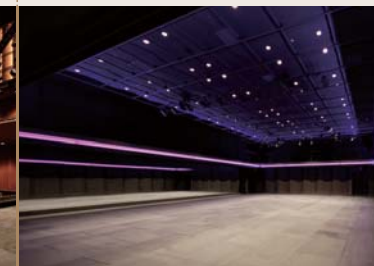
**[ サウスホール ]**

伝統芸能、演劇、ダンスなどを可能とする716席の多目的ホール



**[ ノースホール ]**

メインホールの地下に新設され、仮設客席を設置した際には約200人を収容できるブラックボックスタイプの小ホール。



# 奨学生一覧

(各分野五十音順)

## ヴァイオリン/87人

青木 尚佳  
青谷 友香里  
アシュリー マリア アヤ  
東 珠子  
安彦 千恵  
伊賀 あや  
石橋 幸子  
泉原 隆志  
磯 絵里子  
糸井 真紀  
伊藤 文乃  
井上 奈央子  
植村 太郎  
植村 菜穂  
植村 理葉  
牛草 春  
エリック・シューマン  
尾池 亜美  
王 中男  
大江 馨  
大岡 仁  
大島 莉紗  
大谷 玲子  
岡崎 慶輔  
岡本 誠司  
小野 明子  
樫本 大進  
加野 景子  
神尾 真由子  
神谷 未穂  
川村 奈菜  
木嶋 真優  
岸本 萌乃加  
木村 悦子  
清永 あや  
日下 紗矢子  
郷古 廉  
小林 美緒  
小林 美樹  
佐橋 まどか  
佐藤 久成  
志満 直美  
島田 真千子  
島原 早恵

清水 有紀  
白井 麻友  
菅井 京子  
鈴木 愛理  
鈴木 舞  
周防 亮介  
滝 千春  
瀧村 依里  
田島 悠子  
立上 舞  
田中 晶子  
田中 晶子  
谷本 華子  
玉井 菜採  
辻 彩奈  
坪井 夏美  
長尾 春花  
中島 麻  
成田 達輝  
西川 茉莉奈  
西澤 和江  
二瓶 真悠  
林 悠介  
原 麻里亜  
原田 亮子  
福田 廉之介  
藤江 扶紀  
前田 志乃  
正戸 里佳  
松川 暉  
松田 理奈  
三上 亮  
村田 美英  
毛利 文香  
守屋 剛志  
矢野 玲子  
山根 一仁  
梁 美沙  
弓 新  
湯本 亜美  
吉田 南  
米元 響子  
渡邊 ゆづき

## ヴィオラ/12人

赤坂 智子

大野 若菜  
金丸 葉子  
坂口 翼  
杉田 恵理  
瀧本 麻衣子  
田原 綾子  
中島 悦子  
原 麻理子  
牧野 葵美  
山崎 智子  
渡邊 千春

## チェロ/30人

伊藤 悠貴  
上野 通明  
上村 文乃  
植村 葉夏  
江口 心一  
遠藤 真理  
岡本 侑也  
奥田 なな子  
加藤 文枝  
門脇 大樹  
唐沢 安岐奈  
熊澤 雅樹  
佐々木 蘭望  
高木 慶太  
辻本 玲  
中木 健二  
長谷川 彰子  
林 裕  
平野 朝水  
藤井 泉  
堀江 牧生  
松山 翔子  
マーク・シューマン  
三井 静  
峰本 更  
宮田 大  
山上 ジョアン 薫  
山本 徹  
横坂 源  
渡邊 方子

## クラシックギター/3人

谷辺 昌央

藤元 高輝  
松本 大樹

## ヴィオラ・ガンパ/1人

酒井 淳

## フルート/17人

阿部 礼奈  
井坂 実樹  
岩瀬 桐子  
上野 星矢  
大久保 彩子  
久保 順  
倉田 優  
小山 裕幾  
庄田 奏美  
中村 薫  
萩原 貴子  
藤井 香織  
本宮 湖心  
増本 竜士  
森岡 有裕子  
若林 かをり  
渡邊 玲奈

## オーボエ/4人

荒 絵理子  
岡山 理絵  
田代 奏子  
本多 啓佑

## クラリネット/10人

梅原 希枝  
金子 平  
小林 知世  
小山 洋子  
白子 正樹  
辻本 聡子  
中川 知美  
原田 綾子  
福田 さあや  
吉田 誠

## サクソフォン/1人

中島 諒

## ファゴット/3人

小山 莉絵

中野 陽一郎  
藤村 踊子

## トランペット/2人

菊本 和昭  
佐藤 友紀

## トロンボーン/2人

清水 真弓  
山本 浩一郎

## ユーフォニウム/1人

安東 京平

## 打楽器/5人

池上 英樹  
岩見 玲奈  
沓野 勢津子  
通崎 睦美  
福山 直子

## ハープ/5人

景山 梨乃  
シュレイファー 弓子  
高野 麗音  
林 千佳世  
福井 麻衣

## パイプオルガン/1人

椎名 雄一郎

## チェンバロ/2人

北御門 はる  
脇田 英里子

## ピアノ/116人

浅野 未麗  
有吉 亮治  
石川 武蔵  
石田 啓明  
石村 純  
乾 絵美  
今井 彩子  
今田 篤  
入江 一雄  
岩本 恵理  
江澤 茂敏  
江尻 南美  
岡田 奏  
大井 浩明  
大崎 結真  
大西 真由子  
岡本 麻子  
奥田 晓仁  
奥村 友美  
小沢 麻由子  
越知 晴子  
海瀬 京子  
梯 剛之  
柏原 佳奈  
加藤 洋之  
加野 瑞夏  
神野 千恵  
河内 仁志  
川崎 翔子  
川島 基  
川田 健太郎  
河村 尚子  
菊池 裕介  
菊池 洋子  
喜多 宏丞  
清塚 信也  
日下 知奈  
工藤 奈帆美  
久保 千尋  
倉澤 杏菜  
高 実希子  
壽 千明  
小林 愛実  
小林 有沙  
小林 海都  
齊藤 一也  
坂本 真由美  
石川 明弘  
佐々木 宏子  
佐竹 裕介  
佐藤 卓史  
佐藤 彦大  
佐藤 麻理  
佐野 まり子  
紫垣 英二  
志鷹 美紗  
釈迦郡 洋介

白川 多紀  
菅野 将紀

## 鈴木 謙一郎

住友 郁治  
関本 昌平  
芹澤 佳司  
反田 恭平  
高田 匡隆  
高橋 礼恵  
内匠 慧  
田中 香織  
田中 正也  
田村 響  
津嶋 啓一  
津田 裕也  
鶴見 彩  
土居 知子  
中尾 純  
中桐 望  
中島 彩  
長瀬 賢弘  
中元 千鶴  
奈良 希愛  
新美 光映  
沼澤 淑音  
萩原 麻未  
橋本 尚  
服部 慶子  
花岡 克典  
浜野 与志男  
林田 麻紀  
平松 悠歩  
福田 和子  
真隅 政大  
松尾 久美  
松岡 淳  
松本 和将  
丸山 耕路  
萬谷 衣里  
Elezovic MIA  
三浦 友理枝  
三戸 あけみ  
三宅 麻美  
宮下 彩子  
宮田 理生

務川 慧悟  
村田 理夏子

## 村松 珠美

森田 義史  
矢島 愛子  
山田 剛史  
山本 亜希子  
吉兼 加奈子  
ティーテン 吉川 右希子  
吉田 友昭  
吉武 優  
米津 真浩  
李 早恵  
脇岡 洋平

## オルガン/2人

福本 茉莉  
宗 かおり

## 声楽/53人

石井 教子  
市原 愛  
乾 麻里子  
上杉 清仁  
江口 輝博  
大島 京子  
岡田 昌子  
加藤 史幸  
加藤 麻衣  
川島 幸子  
川原 成子  
木下 周子  
木下 美穂子  
木村 善明  
木村 里花子  
蔵田 みどり  
小玉 晃  
小林 沙羅  
近藤 圭  
崔 宗宝  
坂本 知亜紀  
志摩 大喜  
清水 俊徳  
周 江平  
杉原 かおり  
鈴木 愛美

田邊 織恵  
谷口 伸

## 谷村 由美子

田村 麻子  
趙 非  
津國 直樹  
辻 裕久  
寺田 功治  
田 大成  
富岡 明子  
中川 恵美里  
中島 康晴  
鳴海 真希子  
藤木 大地  
藤谷 佳奈枝  
本田 智衣  
朴原 友  
真野 路津紀  
溝淵 悠理  
峯島 望美  
宮里 直樹  
森野 美咲  
山下 新吾  
山本 美央  
吉田 貴子  
藍 野流  
李 恩敬

## 指揮/21人

粟辻 聡  
石川 星太郎  
伊藤 翔  
垣内 悠希  
川本 貴司  
岸本 有理  
鬼原 良尚  
齊藤 一郎  
阪部 慎太郎  
篠崎 靖男  
下野 電也  
杉本 優  
橋 直貴  
寺岡 清高  
阪 哲朗  
三ツ橋 敬子  
村上 寿昭

村中 大祐  
森 香織

## 森口 真司

森田 宏樹

## 作曲/18人

阿部 俊祐  
稲森 安太己  
今井 智景  
木下 正道  
小出 稚子  
酒井 健治  
坂田 直樹  
塚本 瑛子  
中川 佐織  
夏田 昌和  
朴 炳五  
松宮 圭太  
松本 直祐樹  
ママトウメル  
山口 紘  
李 大軍  
渡邊 愛  
渡辺 裕紀子

## 教会音楽/1人

小山田 薫

## 音楽学/13人

金 土友  
真方 マキ子  
周 耘  
白石 悠里子  
関本 菜穂子  
園田 みどり  
高野 裕子  
戸祭 哲子  
西村 理  
畑野 小百合  
早坂 敦子  
丸山 瑤子  
李 金叶

## オペラ演出/4人

井原 広樹  
郭 才銀  
馬 金泉  
森岡 純子

計 414人

(2015年11月現在)

Rohm Music  
Foundation  
ロームミュージックファンデーション



2016.1.10 OPEN  
**ロームシアター京都**  
ROHM Theatre Kyoto

ロームミュージックフレンズ No.2  
—ロームミュージックファンデーションの音楽文化支援情報誌—

発行 2015年11月

企画・発行：公益財団法人 ロームミュージックファンデーション  
〒615-0044 京都市右京区西院西中水町1  
TEL(075)311-7710 FAX(075)311-0089  
<http://www.rohm.co.jp/rmf>

協賛：ローム株式会社

この情報誌に掲載の写真・文章の無断転載を禁じます。

2016.02.5K

UD  
FONT

